英語の単純形と進行形

北村正司

(1)

英語の単純形と進行形の本質的機能に関しては，すでに久しく論議が重ねられ，中には顕著な差異を示すものもある。William Diver は1963年の論文において，英語の動詞形についての批判と発表を行なっているが，その中で単純形と進行形に関し，Jespersen, Hill, Twadell の学説の不当を論じ，独自の記述を示している。[(1)] Diver の批判は Sweet にまでさかのぼっていないが，両者の説は共通点を含んでいるので，まずこの2つの記述を比較検討してみよう。

Sweet は進行形を definite tense と呼ぶ。それは，たとえば，*I am writing* a letter. が I am writing a letter at this moment. の意味で，現在という一定時に密接なつながりを持っているからである。一方単純形の I *write* my letters in the evening. は When I write letters, I write them in the evening. の意味で，同じ現在でも不定時と言うべきであるとされる。それで単純形は，definite tense としての進行形に対し，indefinite tense と総称される。[(2)] この立場から見ると，単純形の The sun *rises* in the east. や Platinum *is* the heaviest metal. のような場合には，単純形の示す時間の観念は，過去未来に及ぶものであるから，なおさら不定になる。[(3)] また Sweet の動詞の性質から区分する continuous tense を表わす He *lives*

(1) William Diver, "The Chronological System of English," *Word* XIX (1963), pp. 141-181.
(2) Sweet, *A New English Grammar*, § 288.
(3) *Ibid.*, § 289.

in the country. や recurrent tense を表わす He *goes* to Germany twice a year. の場合には,[1] 進行形とくらべると，定・不定の差がかなりはっきりしている。

Diver の definite は definite occasion を，また indefinite は indefinite occasion を指すのであるから，Sweet の定・不定と意味が等しい。Sweet との違いは，Diver にあっては，同じ時制でも定・不定の両者を表わす場合があり，現在完了進行形が不定を表わすことなどである。しかし現在形の場合は，進行形が definite を，単純形が indefinite を表わす方式になっている。この説明のため，Diver は Jespersen の

> He is a night watchman and *sleeps* of mornings. He *is sleeping* now.

という文を引用して，両形の区別を次のように述べている。

> The meaning of the two forms, freely rendered, are: The meaning indicated by the attached verb takes place on an indefinite (*or* a definite) occasion in the present. Each of the two meanings is directly opposed to its correspondent on the past axis ....[2]

Diver によれば，現在進行形の示す一定時とは，発話の瞬間であり，単純現在形は発話の瞬間という一定時を避ける。 He *sleeps* in the morning. は，発話の瞬間と関係なく用いられる。たとえ午前中にこの発話がなされても，発話の瞬間と明白な関係があるわるわけではない。こうした現在の瞬間に関する不明確さが現在における不定性の特徴であると言う。

上記のように現在形に関しては，Sweet はもちろん Diver も定・不定を進行形と単純形の意味の区別としている。しかしこの区別によって両形の機

(1) *Ibid.*, § 283.
(2) Diver, *op. cit.*, p. 173.

能を割切ることは困難である。たとえば次のように対立する文はどのように説明されるのであろうか。

He *is always getting* drunk.

He *always gets* drunk.

Hatcher が指摘するように，前者は on every occasion の意味であり，後者は on Saturdays, at these reunions, when he comes to our house のような修飾語に限定されることが多い。[(1)] この事実は Sweet も注目し，He *is always complaining.* は独立して用いることができるが，単純形の方は He *always grumbles when he is at home.* のように，時を限定し，反復の含意を示すなんらかの語句を予期させると言っている。そして Sweet は She *is always going* to church. She *is always doing* things for people. のように，always, constantly のような語が definite tense に付け加えられる場合は，時間に関する一定性を失うと言う。[(2)] したがって，He *is always getting* drunk. と He *always gets* drunk when he comes to our house. を比較すると，時の定・不定の関係が逆になってると見ることができる。また

I *hope* you will come and have lunch with me.

I *am hoping* you will come and have lunch with me.

のような場合は，時の定・不定の区別から適切にニュアンスの差異を説明することは困難であると思う。

なお Diver は

He *keeps working* there, even though the pay is low, because he likes the people better.

---

(1) Hatcher, "The Use of the Progressive Form in English," *Language* XXVII (1951), p. 257.

(2) Sweet, *op. cit.*, § 2221.

They'*re keeping working* because they have a big order to get out.

など,現在形における keep+～ing, be keeping+～ing の動詞句を特別に扱い前者の意味は "present, extended, indefinite" であり，後者は "present, extended, definite" だと説明する[(1)]。しかしこれは keep の辞書的意味からこの語を助動詞的に取扱ったものと考えられるのであって，辞書的意味から keep+～ing, be keeping+～ing を文法構造として特別に取扱う行き方には賛成できない。

さて既述のように，現在形の場合でも，進行形と単純形の定・不定の区別がはっきりしない場合やその区別が逆になると思われる場合があるが，その他の時制においては，差別は一層瞬味になることがある。たとえば He *has been studying* English since 1960. と He *has studied* English since 1960. のような場合である。Diver が He *has been walking*. と He *has kept walking*. を一群として，その意味は

The event indicated by the attached verb took place over an extended period of time on an indefinite occasion in the past.[(2)]

であると言い，現在完了進行形も indefinite として処理するのは，そういう理由によるものであろう。また He *has been walking* in the park *on Tuesday*. は特定の Tuesday を指すことができない[(3)]。上述のように Diver の分析では，definite と indefinite が，それぞれ進行形と単純形に固着したものではない。Sweet と共通点はあるが分析の着眼には相当の差がある。この手法を見ても，時の定・不定の差別の表現をそれぞれ進行形と単純形の本質的機能となしえないことが明らかである。

---

(1) Diver, *op. cit.*, p. 174.
(2) *Ibid.*, p. 161.
(3) *Ibid.*

Jespersen は Sweet の definite tense の取扱いの価値を認める一方において，その名称を不適当として

> Sweet's treatment of the expanded tenses (NEG § 288, 2203 ff.) is, as might be expected, most instructive on many particular points, but he seems to labour under the inappropriate name he gave to the tenses: it is true that *I am writing a letter* is more 'definite' than *I write my letters in the evening,* but when we come to *I was writing a letter when he came,* the expanded tense should rather be called 'defining' than 'definite'. And yet in both cases the distinction between the expanded and the simple tenses is exactly the same.[1]

と言っている。この言葉は妥当と思われる。また Jespersen のいわゆる 'frame time' の理論は，Sweet の definite tense より巧妙に工夫されている。しかし両者の理論を検討すると，近似したものであることがわかる。Jespersen の説の要点は，たとえば He *is writing.* において writing という動作は now の前に始まり，now の後でも終らないのであって，now に対して時間的枠をなすというのである。Sweet も point-tense を認め，When he came, I *was writing* a letter. においては，書くという動作は，came によって示される時の 1 点の前に行なわれており，その後も継続すると見ているのであるから，[2] 両者の説は本質的には同じであると言える。しかし Jespersen は定・不定の差別を避け，別の基準を設けたので，その説ははるかに広い該当性を持っている。一方 Jespersen の 'frame time' の理論にも，それはそれとしての欠点があり，Jespersen 自身がその例外を認めている。それは

(1) Jespersen, *M.E.G.*, IV, § 14.9 (1)
(2) Sweet, *op. cit.*, § 2214.

Rousseau *knows* he *is talking* nonsense.

She *knew* that she *was laughing* with shrill high cries.

She *knew* that half the room *was gazing* at her, and she liked it.

のような場合であって，これらの文では Jespersen が "... the frame is in a curious way implied in the word *know*." と言っているように[(1)]，単純形が進行形の枠を示しているのであるから，彼の 'frame-time' の理論とは逆の現象を呈している。

前述したように，Sweet, Diver, Jespersen の理論をもって説明しうる場合も多いのであるが，これらの各理論によって解明できないと思われる場合も存在するのであって，単純形と進行形の本質的意味をさらに深いところに求めて共通の要素を把握することが必要である。

(2)

Sweet も Jespersen も進行形の持つ未完結性を重視する。Sweet は進行形は常に未完結を示し，たとえば，He *is writing* a letter. は手紙が書き終えられていないという意味を含んでいると言う。また未完結がさらに顕著に表われるのは，完了進行形であると言って，たとえば，What *have* you *been doing* all day? と What *have* you *done* today? を比較すると，後者は What have you completed today? の意味であると説明する。[(2)]

Jespersen も進行形の理解には未完結の要素がきわめて重要であると言っている。

If we say *he was* (*on*) *hunting*, we mean the hunting (which may be completed now) had begun, but was not completed at the time mentioned or implied in the sentence, and this element of

(1) Jespersen, *M.E.G.*, IV, § 12.6 (7).
(2) Sweet. *op. cit.*, § 2211.

incompletion (at that time) is very important if we want to understand the expanded tenses, even if it is not equally manifest in all cases. But it should be noted that it is not exactly the period of time that is incomplete, but the action or state indicated by the verb itself.[1]

上記のように，Sweet と Jespersen は進行形の未完結性に注目し，これを強調する。そして進行形に関し，未完結性を基盤として，それぞれの理論を展開していると考えられる。他方において Curme は相的な立場から，進行相と終止相をもって，進行形と単純形の主要な機能とする。[2] しかしCurmeは英文法において両形について問題となる点には多く触れるところがない。こうした中にあって，両形に相の差別を認め，いろいろな問題を解決しようとするのは R. A. Close である。彼は進行形の本質的意味は未完結であると見る。

The Progressive is a 'marked' form, i. e. one that expresses a certain distinction or emphasis. The essential distinction or emphasis made in Progressive Forms is the idea of *activity in progress,* i. e. *an action in its uncompleted state.*[3]

Close によれば，活動の進行つまり未完結の状態の区別またはその強調が進行形の本質的要素である。一方単純形はこうした区別と強調を欠くものである。なお be も活動の一種と考えられている。

On the other hand, the Simple Form is 'unmarked', i. e. it does not express that distinction or emphasis.[4]

---

(1) Jerpersen, *M. E. G.*, IV, § 12. 5 (2).
(2) Curme, *Accidence,* § 52.
(3) "Question Box," *English Language Teaching,* XVIII (1964), p. 188.
(4) *Ibid.*

さらに詳記すれば，進行形の表わす相は，

An act or series (of acts) conceived as uncompleted, seen analytically; the activity in progress; a partial or temporary series of performances.[1]

The act uncompleted, imagined as an action in progress; the process rather than the accomplishment; the act seen analytically.[2]

である。すなわち，進行中と考えられる動作，達成よりも過程，分析的に見た動作を表わすのが進行形である。この相はUと名付けられる。これに対し単純形の主要な相は，

An act or series (of acts) conceived simply, without the emphasis contained in the idea of U. An act or series conceived as completed, seen synoptically; the finished product of activity; a whole or permanent series of performances.[3]

であって，その特色は動作を完結された全体として概括的に見るものである。なお，単純形は完結，未完結や時間の観念も重要でない場合，抽象的，一般的な活動を表わす相が認められている。

進行形と単純形の表わす相は，客観的事実とは必然的な関係がなく，重要なのは話者の考え方である。The River Danube *flows* into the Black Sea. においてはその川が流れて止まることがないという事実には関心がなく，全体として1つの現象として見ているのである。もし川が流れているという過程の方に関心があれば， The Danube *is flowing* unusually fast today. と

(1) R. A. Close, "Concerning the Present Tense," *English Language Teaching*, XIII (1959), pp. 62-63.
(2) R. A. Close, *English as a Foreign Language*, § 135.
(3) Close, "Concerning the Present Tense," *English Language Teaching*, XIII (1959), pp. 62-63.

か It *is* for ever *flowing* and *emptying* its waters into the sea. のように言うことができる。[1]

進行形は動作の未完に関心を持ち，このことに注意を引きたい場合に用いられる。Sweet も She *stood* in an impatient silence while she *was* thus *being talked* over. において， stood を was standing にしても正しいが，そうするとこの文における「立っていた」という動作の持つ従属的観念を強調しすぎると言っている。[2]

接続詞の as, while の後には，進行形も単純形も用いられるが，単純形が用いられる次例の

He was considering; but while he *considered,* his companion stepped ashore.

As we *sat* around the fire after tea, an allusion was made to the loss.

のような文について， Jespersen の接続詞が時間的な関係を示しているので，その上時間関係を時制で示す必要がない， economy of speech の1例であるという説明は，[3] かならずしも十分でないと思う。これはむしろ未完結の相に関心がなくその強調の欲求がないためであると考えられる。これらの接続詞の後に進行形が用いられる場合はもちろんその逆になる。Close はラジオの実況放送から，次の文を引用している。

As I *stand* here, the procession *is entering* the hall.

そしてこの文を

As I *am standing* here, the procession *enters* the hall.

---

(1) Close, *English as a Foreign Language,* § 142.
(2) Sweet, *op. cit.,* § 2220.
(3) Jespersen, *M. E. G.,* IV, § 12·9 (2).

のように言えば，行列が小さなものであり，重要なのは自分であるという印象を与えると言っている。[1] これは2つの相の意味の区別を表わす実例として興味が深い。

また

> He began to wonder what she *was thinking* of as she *stared* ahead so grimly, she seemed to have forgotten that he *walked* beside her.—Morley Callaghan.

においては， was thinking と stared の動詞形の相違が，前者に上述の強調があることを示している。また walked は was walking とすることができるが，単純形になっているのはそうした強調が欠けているためであろう。

なお，他の学者で Close の考え方に最も近接した見解を述べているのは Ota である。

> Progressive forms indicate an action in the process (of taking place) now (present progressive) or at or during some time in the past (past progressive). Process means that the action has already started, and that it is now moving toward a completion, but has not come to the completion yet. Thus process involves movement. It involves unceasing development of the action toward a completion. Thus it is dynamic. Simple forms, on the hand, grasps an action as a whole, as a complete, static fact, and place it in some time sphere (now or past) or in no time sphere (timeless). It involves no movement. It is immobile.[2]

Close と Ota を比較すると，進行形の本質的意味は，Close においては

(1) Close, *English as a Foreign Language*, § 142.
(2) Akira Ota, *Tense and Aspect of Present-Day American English*, p. 59.

動作の進行，過程であって，その基調は未完結性であり，Ota では過程になっている。表現に差異があるが結局は同じような見方であると言えると思う。単純形の本質的意味についても極めて近接した考え方である。ただ Ota は進行形は dynamic であるとしそれから生ずる機能として "... they (= the progressive forms) tend to add a flavor of vividness, emotion, or emphasis to the description."[1] と言っているが，Close は dynamic な表現は進行形にも単純形にも可能であって，進行形でも dynamic な表現にならないこともあり，いずれの場合も特殊な例・特殊な文脈における付随的要素であると言う。[2]

The Progressive Form may no doubt express the dynamic quality of an action—in some cases, and only incidentally. In other cases, and also incidentally, it may express undynamic quality.

In a particular example, the idea of the dynamism, or the duration, or the slowness, or the indeterminateness of the *activity in progress* may be noticeable, but it is the idea of activity in progress that is the common factor in (apparently) all examples of the Progressive.

Action can be accomplished very dynamically, and this can perfectly well be expressed in the Simple form of any tense.

以上の説明には文例がついていないが，Close の著書には次の 2 例があり[3] 上記の例証になっている。1 つはフットボールの試合の実況放送の場合で，単純現在形が終始用いられている。

Johnson *passes* to Roberts, Roberts to Watkins, Watkins *takes* it forward, oh he *slips* past the center half beautifully, he *shoots*.

---

(1) *Ibid.*, p. 62.
(2) "Question Box," *English Language Teaching*, XVIII (1964), p. 188.
(3) Close, *English as a Foreign Language*, § 146.

他の1つは，ボートレースの実況放送の例で，こんどは現在進行形が連続して用いられている。

> Oxford *are rowing* splendidly—one—two—three—four—they'*re* just *coming* in sight of Hammersmith Bridge. Ah—Cambridge *are increasing* their pace.

フットボールの放送では瞬間的に移り変る迅速な動作が単純現在形で生き生きと描写され，ボートレースの方ではゆっくりした動きが現在進行形で表現されている。しかしここで注意すべきことは速度や継続の時間の長さが動詞形の決定基準ではなく，速さが見る人をして完結した動作を意識させ，継続時間の長さが進行中の動作を意識させるということである。[1]

上記が Close の見方である。彼の dynamic という語の解釈は文字通り「動的」という意味である。一方 Ota が進行形は dynamic であるというのは，その descriptive function を述べたものと解される。そして descriptive function の説明は三省堂英文法辞典では「単一時制は事実を報告するだけであるが，進行形は動作，状態を眼前にあるように生き生きと叙述する。そして単一時制が客観的な冷静な感じを与えるのに対し，進行形は客観的，感情的な感じを与える。従って物語などで進行形を使うと，話はそれに停滞してしまう。語り手は心を留めてそれを叙述することになるからである。ところが単一時制はどんどん話の筋を展開して行く。」[2] となっている。この説明と Close を比較すると，両者の認める2つの形のニュアンスには共通点が多いことが判る。

進行形の descriptive functionについては，Sweet の歴史的説明を始め，[3] いろいろな学者の記述がある。一方単純形も，その叙述の性格が異なるが，

(1) *Ibid.*
(2) 三省堂「英文法辞典」p. 753.
(3) Sweet, *op. cit.*, § 2209.

前掲ボートレースの文例のように動作を眼前にあるように生き生きと描写する場合がある。問題は descriptive function を，進行形の根本的性格と見るか，付随的要素と見るかというところにあると思う。筆者は Close の考え方に賛成である。つまり，進行形・単純形のいずれもさまざまな付随的意味があり，それは両形の本質的意味から生ずるという見方であって，現代英語におけるいろいろな場合の満足な説明に導くものであると思う。

さて，進行形の本質的機能を進行中の活動，未完結の状態にある活動と考え，単純形の特質を全体として完結した活動と見る行き方から，両形の差別についての問題点はどのように解決されるかを次に記してみよう。

(3)

進行形の用法のうち，大きな問題点を構成するのは，He *is always smoking.* のような習慣を表わす場合であろう。定・不定の区別からすれば，どのように説明されるのであろうか。Diver は

> But here, as in the past, a period of time can be made definite by limiting it through opposition to a larger, indefinite, period of time: *He is sleeping in the morning this week because he has been put on the night shift.* The extreme case of this is the ironic *He is always needing money,* where even *always* is forced to be definite, and and the definite occasion is said to be permanent.

と言う[(1)]。たしかに He *is sleeping* in the morning this week because he has been put on the night shift. においては，副詞句が表現を definite にするのを助けている。しかし，この解釈を拡大して He *is always needing* money, の always を definite に解しようとする努力は無理であると思う。

(1) Diver, *op. cit.*, p. 173.

その上進行形と共に用いられる always と He *always needs* money. のように単純形と共に用いられる always との区別が説明がされていないので，Diver がこの 2 つの場合の always をどう見ているかがはっきりしない。

Joos は従来の学者と異った見方から相を区別し，進行形を temporary aspect と呼び，その本質は，叙述の有効性の時間的限定であると見る。

> The temporary aspect does not necessarily signify anything about the nature of the event, which can be essentially progressive or static, continuous or interrupted, and so on; instead it signifies something about the validity of the predication, and specifically it says that the probability of its validity diminishes smoothly from a maximum of perfect validity, both ways in the past and in the future toward perfect irrelevance or falsity.[1]

叙述の有効性の未来に関する消失度は I have been watching. のように突然起ることもあるが，以上は原則的な記述である。Joos の考え方は，Jespersen の frame-time 説と共通するところがあり，後者の改善を意図している。Jespersen の枠が動作が事柄を囲むものであるのに反し，Joos の枠に入るのは叙述の有効性になっている。したがって，He is now writing a novel. は小説を書くという動作が必ずしも発話の時に行われているとは限らないので，Jespersen の frame-time 説は当てはまらないが，Joos の方では，発話の瞬間は書くという動作の叙述が有効な時間領域に入るのでその矛盾がなくなる。しかし，このような見方からしても，He *is always smoking*. の説明は困難である。Joos 自身も "I must admit that '*You're always bothering*' is a teaser."[2] としてその解釈のむずかしいことを認めている。そして彼は always に 2 義を認め，She's *always bothering* me. は "At

(1) M. Joos, *Eiglish Verbs*, pp. 107-108.
(2) *Ibid.*, p. 108.

any epoch it is for a limited time true that she bothers me." であり，She *always bothers* me. の方は "For all times of interest it is true that she bothers me." であると説明する。[1] 手法は違うが，進行形に時間的限定の機能を付与したもので，その解釈はすっきりしないと思う。

Sweet は既述のようにあっさりと，She *is always going* to church. She *is always doing* things for poor people. では，必然的に時間の一定時の観念を失うと認めている。またこれも既述のように He *is always complaining* と He *always grumbles* when he is at home. とを比較する時，かえって後者の方が definite な表現になっているのであるから，定・不定の差をもって説明することには一層の無理がある。

Ota は always などと共に進行形が用いられる場合について "These high frequency indicators mean that though the action is interrupted at present or at some particalar time in the past, the implication is that it is or was *in process* and will be resumed soon."[2] と説明し，Close は現在進行形の用法は (1) 進行中の活動，(2) 一時的習慣，(3) 絶えず続く習慣 (a constant, unending habit) の観念を強調するものであって，いずれの場合も未完結の観念が表現されていると言う。一時的習慣は，I usually get up at seven, but I *am getting* up at six this week, to revise for my examination. のような場合で，話者の関心は全体として見た不変の習慣ではなく，部分的な活動の連続にある。また The people next door *are always quarreling*. においては，習慣は絶えず続くという意味において未完結であると見るのであって，[3] 進行形の本質から，いずれの場合もうまく説明されていると思う。

---

(1) Joos, Review of *Time and Aspect of Present-Day Americen English* by A. Ota, *Language*, XL (1964), p. 489.

(2) Ota, *op. cit.*, p. 65.

(3) Close, *The New English Grammar*, § 194.

(4)

Joos は進行形と併立しがたい動詞を status verb と呼ぶ。この動詞を大別すると (1) 心理的状態を表わす see, hear, believe, understand, like, regard などと, (2) be, have, resemble, differ などのようにいろいろな関係を示すものがある。Status verb に対して普通の動詞は process verb と呼ばれる。同じ動詞でも process verb として用いられる場合は当然進行形を取ることができる。たとえば hear は

The Judge *is hearing* a case just now.

においては, process verb として用いられているので, 多くの普通動詞と同様進行形を取りうるのは当然である。(1)

しかし status verb も未完の一時的動作を表わす場合は進行形を取ることができる。Diver は次のような例を示している。もっとも最初の 2 例の意味についてはもっと説明が必要と思われるが, これに関しては後述する。

For the moment I'*m believing* him; he'd better turn out to be right.

First she likes this and then she likes that; right now she'*s liking* Marlon Brando.

"Did you hurt yourself?" "Well, I'*m seeing* stars but otherwise I'm all right."(2)

また次のように発展段階を強調する場合も同様に進行形を取ることができる。

I'*m hearing* it *better* now: it's coming through more clearly all

(1) Joos, *English Verbs*, p. 118.
(2) Diver, *op. cit.*, p. 174.

the time.

I'*m seeing* it *more clearly* now: focus it just a little more to the left.[1]

Think, hope, like などの動詞も，進行形を用いることは普通でないが，進行形で単純形と異った相を表わすことがある。たとえば

I *think* you're right.

I'*m thinhing* you're right.

の対立の場合で，Close は前者においては，think という行動が完結したと考えられ，後者は you're right という結論に近づいているが，まだ決定しないことを表わす，前者は後者より明確な表現であると説明している。[2]

また，Hornby は *Do* you *like* fish? は "This asks about a state that is assumed to be formed and to have reached completion—a permansnt state." と言い，How *are* you *liking* your new job?" については，"Here the progressive tense is used because it is assumed that the person to whom the question is put has not arrived at a final state of either like or dislike." と説明している。これも両形の相の説明になっている。[3]

次に hope についても

I *hope* you will come and have lunch with me.

I *am hoping* you will come and have lunch with me.

のように，単純，進行の両形が可能である。Close は単純形の方は，多忙で尊大な実業家ならば，これを聞いて，無遠慮と感じ招待を断るであろうし，

(1) Hatcher, *op. cit.*, p. 269.
(2) Close, *English as a Foreign Language*, § 152.
(3) A. S. Hornby, *A Guide to Patterns and Usage in English*, § 60.

進行形の方ならば，ひじょうに丁寧と感じ招待に応ずるであろうし，また人によっては，単純形の方が招待の意図を明確に表わすものとして受諾し，進行形の方は，意図がはっきりせず懇願の調子に欠けていると感ずることがあろうと説明している。[1] これは示唆に富む解説であると思う。しかし，単純形の方が希望を明確に示しているだけに，より丁寧に響く場合が多いように感じられる。これは正式な招待状には，たとえば The Consul of the United States of America *requests* the pleasure of the company of .... のように request の単純形が用いられることからも推測される。なお，Kruisingaには

We'*re hoping* you will be able to come and dine with us for Twelfth Night.

の文例があり，この場合 descriptive function を取るという説明がある。[1] これは切望を意味すると解される。次の例では，このことがなお一層明瞭になっている。

I'*m hoping* and *praying* that he'll come.

上記のように，こうした場合の進行形のニュアンスは多種多様であって，場合によっては英語国民も単純形との差を感ずることができないこともありうると観察される。しかし，これらのニュアンスを生ずる根底となっているのは，進行形の示す相の基本的性格であって，場面に応じて多様の意味を添えるものと思われる。

These *nuances* have private meanings and endless possibilities. They are the sort of subtlety into which native speakers like to take refuge, in social defense. Yet the basic distinction between

(1) Close, *English as a Foreign Language*, § 17.
(2) Kruisinga, *A Handbook of Present-Day English*, II, § 508.

completion and incompletion remains in them.[1]

(5)

単純現在形と現在進行形は，I *leave* tomorrow. I *am leaving* tomorrow. のようにいずれも未来を示すことができる。この両者の差異も相の視点から考えられなければならない。単純形の方は，活動を現在完結し，決定しているものと見ている。したがって表現が確定または断言的な力を持っている。この相は次のように指示を仰ぐ表現にも示される。未来の動作が現在すでに確定しているものと考えられているのである。

What *do* I *do* next? *Stand* or *sit* down?
Where *do* we *go* now?[2]

また hope に続く節の中に未来形のかわりに，現在形が用いられることがある。

I *hope* you *get* well soon.
I hope he will arrive (I *hope* he *arrives*) safely.[3]
I *hope* your effort to help other teen-agers *scores*. — Ann Landers.

この単純現在形も近い未来を表わし，単純形の相の力によって，表現に確実性を加えるものである。なお hope という動詞が後続の現在形の動詞が未来の意味であることを示している。

次に I *am leaving* tomorrow. のように近接未来を示す現在進行形は，活動が話者または第3者によって決定または計画され，その意味において，活動の過程が始ったということを示唆強調する。

(1) Close, *English as a Foreign Language*, § 152.
(2) Zandvoort, *A Handbook of English Grammar*, § 129.
(3) Hornby, *op. cit.*, § 111 k.

Is Jack *coming* tonight?

I *am going* there next year.

When *are* you *leaving?*

以上は往来発着の動詞の文例であるが，今日ではもっと広く用いられ，Zandvoort は往来発着の動詞のほか，sleep, stay, dine, lunch, issue, publish, wear, do, play を含めている。[1]

What *are* you *wearing* tomorrow?

What *are* you *doing* next Saturday?

I *am playing* tennis this afternoon.

しかし，この近接未来形はすべての動詞に使えるわけではない。適用不能なものに Joos の status verb がある。たとえば，Don't worry the baby *is resembling* his father next year all right. とは言えない。この種の動詞は will や be going to の助けを借りないで未来を表わすことができない。したがって Don't worry: he *leaves* next week. とは言えるが，Don't worry: the baby *resembles* his father next year. も不可能である。Joos はこれを status verb 選定の経済的な基準としている。[2] しかし，status verb 以外の動詞にも，後にも若干触れるように現在進行形で未来を表わすことができない場合がある。

未来を表わす現在進行形は，話者の強い決意を表わすこともあるが，この場合も計画が含意される。[3]

I'*m* not *paying* a pound for an article that is worth no more than ten shillings.

I'*m* not *accepting* any excuses.

---

(1) Zandvoort, *op. cit.*, § 95.
(2) Joos, *English Verbs*, p. 118.
(3) Zandvoort, *op. cit.*, § 95.

I'*m* not *letting* him get away with that story.

次に I *am leaving* tomorrow. と I *am going to* leave tomonow. の両形の意味の差は何であろうか。Be going to について Joos は "Here there is no emotion, desire, intention, resolution, compulsion, or the like. That is to say, this is completely colorless 'future tense' way of speaking. Indeed this seems to be the only uncolored future that English has; and we note that it is equally usable as a real future relative to a real past epoch, something that is hard to accomplish neatly in a good many languages."[(1)] と言って，この形は意図などを含まない完全に無色の未来を示すと見ているが，他の学者と一致しない。一方 Allen は基本的には，人が主語の場合は意図や話者の確信を，物が主語の場合は話者の感じている見込や必然性を表わすと見ている。[(2)]

I'*m going to* climb to the top.

She's *going to* have a baby.

The sun's *going to* shine. (The cloud has nearly gone.)

また米語の文法を記述した Long は，しばしば意図を表わし，時としては準備，傾向，方向を示すと言う。[(3)]

We're *going to* sell the car.

It's *going to* rain.

The baby's *going to* fall out of the chair.

What's this *going to* cost me?

以上の諸説などから判断し，実際の文例を検討すると，be going to は

(1) Joos, *English Verbs*, p. 23.
(2) W. S. Allen, *Living English Structure*, pp. 122-125.
(3) Ralph B. Long, *The Sentence and Its Parts*, pp. 175-176.

基本的には主観的色彩の濃いものと言うのが妥当であると思う。Close は I *am leaving* tomorrow. の形の本質的要素は，事柄が計画され，その意味において過程がすでに始まったという考え方であるが，I *am going to* leave tomorrow. の形の焦点は，現在の活動（意図，準備，未来の出来事の明瞭な前兆など）にあり，話者はこうした活動が未来の出来事を起すという確信を抱いていると言う。ここに現在の活動と言うのは現在進行形の相がそれを示し，同時に未来における達成を to leave が表わすと見ているのである。換言すれば be going to の形が，未来に対する準備とその達成の両者を表現すると考えているのである。この場合の達成とはもちろん想像上のものである。[(1)]

Close は以上の関係を次のようにまとめている。

> Meanwhile, *am leaving* (*tomorrow*) *v am going to leave* could be expressed as *process imagined as begun in the sense that preliminary decisions, plans* or *arrangements have been made, v present activity, e.g. personal intentions or objective symptoms, imagined as leading to a completed act.*[(2)]

このように両形の意味を理解すると，be going to が可能な場合に，なぜ他の一方の形が不可能かという理由が明らかになる。たとえば，You'*re going to* break that chair if you're not careful. では，話者は未来の出来事の前兆を見て，確に椅子がこわれると感じているのであって，you が破壊を意図しているのでもなく何人も you が破壊するように計画したのではないから，この文脈では you'*re breaking* は誤りである。また I'*m going to* sneeze in a moment. や It'*s going to* rain this evening. をその文脈では I'*m sneezing* や It'*s raining* の形にすることはできない。これに反して，

(1) Close, *English as a Foreign Language*, § 155.

(2) *Ibid.*

I'*m going to* end this chapter soon. は決意をも表現しているのであるから，I'*m ending* の形にすることができる。上例のように be going to の形は，他の一方の形が不可能な場合にも用いることができるので，両者のうち会話においては，きわめて頻繁に用いられ，機械的に選択されることが多い。[1] 上記は Close の説明であるが参考になる点が多い。

Be going to の形を進行形でなく未来の助動詞として取扱う手法も存在するが，その意味を明らかに把握するためには，やはり進行形としての相的機能から考察する方が適切であると思う。[2]

(1) *Ibid.*
(2) Long, *op. cit.*, pp. 175.